

犯罪的意図をもって行動したと思わせるような事実を何一つ耳にしていません」と語った。

この高揚した日々以降、その判決に対して集中砲火を浴びたマーガレット・ギムブレット判事は、私たちが裁判官の仕事ぶりを評価するときの基準となった。これは、評決が正しかったからというよりは、—もちろん、それも重要だが—彼女の根底にある専門的職業意識と、洞察力、礼儀正しさのためである。その公判中のマナーは完璧で、彼女は傍聴席を陽気な「おはようございます」の声で包み込んだ。彼女に匹敵するような裁判官にはその後まだ会ったことがないということも言っておかなければならない。彼女とウルフ・パンツェル判事とが相互に尊敬を寄せていたことは明らかで、ウルフは証人席からギムブレット判事の訴訟指揮の見事さを称えた。これは極めて異例なことである。

スコットランドのメディアはこれまでどちらかというと無関心であったが、これがいい新聞種であり、当たりの記事になることを遅ればせながら認識した。イングランドのメディアはこの件に関してほとんど取り上げず、ガーディアンには特に失望させられた。グリーンノックから河をへだてて5マイル(約8キロ)のところにあるヘレンズバラ(Helensburgh)地方裁判所は、予想通り、国際法を考慮に入れることを断固として拒否する考えを変えなかった。10月25日、アン・ショルツ(Anne Scholtz)は8月のファスレーンへの遊泳による侵入に関して有罪の判決を受け、罰金を科せられた。27日、スコットランド法務総裁が、ギムブレット判事の裁定について法的問題を明らかにするため、この事件を最高法院に付託するという決定を発表した。事件付託におけるこの政府の手先の動機は明らかだった。結局、これによって英国の防衛政策の合法性に対する大きな疑念が提示された。同時に、トライデントの法的位置付けが上級裁判所で議論される機会が得られたことを私たちは歓迎した。また、スコットランド議会においても前向きな政治的反応があり、議論が巻き起こっていた。欧州議会ではニール・マコーミック(Neil McCormick)議員が次のように述べた。「ギムブレット判事の勇気と独立性、そして、アンジー・ゼルターおよび彼女の仲間たちの勇気は、包

括的核実験禁止条約(CTBT)に批准しようとしな

い米国上院のわがままと好対照を成している」私達が11月12日の週末キャンプのためにクールポートに戻ったとき、確かに新しい勢いが感じられた。これまでのメディアのグリーンノック裁判に関する報道はいつも雑で非常に単純化されたものではあったが、それでも、トライデント計画の推進と私たちの犯罪防止活動からそれを守ることを生業としている人々の心のなかに疑いの種を蒔き始めたらしく、それを信じるべき確かな根拠があった。私たちはクールポートのゲートの責任者であるグレゴリー(Gregory)准将に手紙を手渡した。そして、あなたは部下たちを犯罪的かつ非道徳的活動に従事する



ガネシュと彼の鋤。1999年11

よう先導することにより、彼らを困った状況に置いているのだ、と助言した。私たちは、ストラスクライド警察の内部に存在する私たちの姿勢への共感に、ずっと以前から気づいていた。そして、大量虐殺の脅威に対してよりはっきりと不快感を表しつつある社会のなかで、法の強制への加担が意味するものについて彼らが真剣に考えようと思うなら、私たちは必要な支援を提供したい、という希望を表明した。この時点で、私たちは犯罪を防止する役割を果たしている、ということをもさらに強調し始めた。その週末の行動のハイライトはクールポートの二つのゲート

とともに封鎖することだった。一つのグループがメインゲートの前に長く連なる障害物を作っている間、シルビア・ボイズ(Sylvia Boyes)とマルジャン・ウィレムセン(Marjan Willemsen)とジェニー・ガイアウィン(Jenny Gaiawyn)が建設用ゲートに止まっている3台の作業員用バスに身体を括り付けた。もう少し変わったイベントとしてはキルクレガン(Kilcreggan)の上の通信用支柱までの行進があった。秋の陽を浴びて湿原のなかを延々と歩くものだった。通信用支柱は犯罪的な海上交通だけでなく、罪のない海上交通も支えているものだったので、これを壊すつもりはなかったが、その代わりに、ここにふさわしいプラカードが掲げられた。この行進は長時間にわたるもので、すべての参加者がこの企画を実行する価値を確信していたわけではなかった。1人の男性は何度も湿原の泥のなかから足を引っこ抜きながら、こんな感想を漏らした。「これは間抜けな

計画だって、俺はいつも言ってたんだ」

11月22日、アイルランドの活動家であるマリー・ケリー (Mary Kelly) が、トライデントに反対する論拠をすばらしく要約して述べたにもかかわらず、ヘレンズバラ地方裁判所は予想通り彼女を有罪とした。



欧州議会のキャロライン・ルーカス (右) とセーリド・クラター. 2000年2月14日

増して真実からかけはなれ、ファスレーン基地内に核兵器があるということは知らないと述べた。こうしている間に英国軍艦ベンジェンスはバロー・イン・ファーネス (Barrow-in-Furness) に戻って、就役を待っていた。それは、シルビア・ボイズとリヴァー (River) の関心を引いた。2人はハンマーとりのりニスのスプレーを持って VSEL ドックを泳いで渡り、その潜水艦に乗船しようとして、ドックのなかで逮捕された。シルビアは保釈を拒否し、リヴァーは保釈を望まなかった。12月2日の審問において、リヴァーはそのときに提示された、すべての核兵器基地の10マイル(約16キロ)以内に立ち入らないという条件を含む保釈条件を拒否した。リヴァーは、英国にはトライデント関連施設が山ほどあることを指摘し、もし、英国軍艦ベンジェンスの10マイル以内に核弾頭が一つもないことが確信できるならその条件をのむと述べた。彼はプレストン刑務所に送り返された。一週間後、彼は、その保釈条件が彼の平和的に抗議するという基本的権利を侵害している、と巧みにかつ意義深く主張して釈放された。リヴァーとシルビアの公判は2001年1月8日にマンチェスター刑事裁判所で行われることになっている。(彼らはそれ以来釈放されている)

1999年11月以降、告訴されている活動家の一部がヘレンズバラ裁判所での難局を打破する試みとして、抗弁への別のアプローチを考えつつあった。

「ローカル・ヒーローズ (Local Heroes : 地元の英雄たち)」のバーバラ・マグレガー (Barbara McGregor)、ブライアン・クエイル、ジェイン・タレンツ、エリック・ウォーレス (Eric Wallace) は、戦争犯罪が行われていると知ったとき平和的かつ非暴力的に介入することができる権利がヨーロッパ人権条約によって与えられている、ということに主張を盛り込んだ。「アドムナン (Adomnan)」のアラン・ウィルキー (Alan Wilkie) は秩序違反の罪に対する彼自身の抗弁で同様の主張をし、パメラ・スミス (Pamela Smith) は秩序違反という概念全体に挑んだ。これらの申し立ては争点付託として知られている。それはスコットランドの1999年の制定法下においてヨーロッパ人権条約をスコットランドの法律に組み入れたことに言及しているからである。アランの抗弁もパメラの抗弁も棄却されたが、パメラは上訴した。「ローカル・ヒーローズ」のメンバーたちもスコットランドのどこか別の場所で同様に訴訟の結果を待っている。

2000年1月25日、ロージー・ジェームズとレイチェル・ウェナムは英国軍艦ベンジェンスに対して行った優れた活動に関し、ランカスターで裁判に付されたが、この裁判はきちんと開始される前に終わってしまった。2人の代理人となったのは事務弁護士のギャレス・ピアース (Gareth Peirce) と法廷弁護士のヴェラ・バイルド (Vera Baird) だった。そのとき裁判の記録をとっていたリヴァーは次のように書いている。「要するに、検事局がへまをやって、去年の5月に検察側の核心的な『証拠』を得たとき、それを記録しておかなかったのだ。これは法廷に現れた検察官の落ち度ではなく、前もって下準備をしておくはずだったチームの落ち度である」

「肝心の証言は全く記録されず、弁護側に伝えら



逮捕されようとするスコットランドの教会聖職者たち. 2000年2月14日



手続きと新しい友達とを待つ。2000年2月14

れなかった。さらに不運なことに、この証拠は彼らが持っている証拠のなかで最も論議的となるものだった。受けた損害の評価額が、国側が最初に陪審審理付託決定手続き（記者註：被疑者を刑事裁判所での正式審理に付するか否かを定める手続き）で陳述した額である 25,000 ポンド（約 4,475,000 円）から、110,000 ポンド（約 1,969,000 円）へと跳ね上がったのである。この評価額の跳ね上がりは判決内容に大きな差を生むはずだった。もし、そういう事態になるならば、の話だったが。検察側が土壇場であつと驚くようなことをしたので、弁護士たちはその仕事柄、事の次第を注意深く調べたいと思った。もし、増額に関して昨夏に適切な通知を受けていたならば、これほど注意深くは調べなかつたらう。彼らは証拠を裏付ける記録を精査し、驚くなかれ、国側はさらにもう 1 人の専門家をつれてきた。そして、おもしろいことに、われわれはまた 25,000 ポンドのあたりに戻っている。弁護側はその機器について調べるための弁護側独自の専門家を得たいと考えており、英国政府もこれにやぶさかではないが、弁護側が用意できる専門家は早くても来週の中ごろ以降になる」 結局、次の公判は 9 月になった。

2000年2月14日にCNDと合同で行うことが予

定されているファスレーン封鎖計画に関して、私たちは広報活動で、これをその年の優先事項にするよう呼びかけた。それに対する反応は非常に期待がもてるものだった。13日の日曜日にグラスゴーで行われた大掛かりな訓練と最終打ち合わせのイベントは、周囲の善意とがんばりと期待に大きく助けられ、無事に終了した。翌朝 5 時 30 分、ミニバスや車が積み込みを終えて、ほとんど混乱も遅れもなくグラスゴー・センターから出発した。国内の至るところから夜を徹して車が基地を目指し進んでいた。下院議員らが姿を見せるらしいとの予想と、ショーン・コネリー、エマ・トンプソン、カート・ボネガットらが支持のメッセージを送ってきたことによって、メディアも関心を寄せていた。彼らのメッセージは、このキャンペーンを「狂気に反対する戦争における正気の人々からなる突撃部隊」と表現していた。この封鎖によって基地の機能は 2 時間以上停止し、185 人が逮捕された。逮捕者のなかにはスコットランドのトミー・シェリダン (Tommy Sheridan) 議員や欧州議会のキャロライン・ルーカス (Caroline Lucas) 議員、10 名のスコットランド教会牧師らも含まれていた。

逮捕手続きを待つ間、2 人の警察官が人々の警護にあたったが、2 人がその持場から離れられないのをいいことに、人々は自分達がなぜここにいるかを話してきかせた。ある人は、その警察官がこれまでに逮捕したなかで「最もいい人」とであると言われ、手続きを待っている間に釈放された。

この日の天気は特に言及するに値する。2000 年 10 月、数件の事件について公判が開かれたとき、証人の 1 人である警察官が事件の日の記録があるかと尋ねられて、天候が良くなかつたのでメモをちゃんととれなかつたと述べたのだ。この言葉はこの日の天気を控えめに言い表している。法律関係のサポートをする「ランナーズ (使い走り)」の働きはめざましかつた。彼らは逮捕者に関する記録をとり、ばらばらになる紙束を手にあちこち走り回つた。おかげで、活動家の多くは今でも、証拠となるバレンタイン・デーの雨のしみのついた日記や記録ノートを持ち歩いている。法的支援チームは 26 時間シフトで間断なく逮捕者に関する情報収集を行い、どの警察署にだれがいるかという情報を更新し、釈放される者の迎えの手配をした。このイベントはメディア報道をあてこんで計画した全国的なものだったが、核犯罪防止に積極的な役割を買って出る人々がますます増えているということが分かつたのが最大の収穫だった。

3月3日、ニューベリー治安判事裁判所において、「ミッドランド・グループ (Midlands Group)」の「マジック・フォー(魔術の4人組)」が有罪の判決を受けた。治安判事は、ヘレンズバラ地方裁判所にいる近視眼的な彼の同僚達と同様、国際法はそれが制定法によって組み入れられていなければ考慮することはできない、と述べた。重い賠償命令が下され、シルビアもその名誉ある活動記録のために罰金を科せられた。マーリーン・イエオ (Marlene Yeo) は全額支払うことを拒否したが、これは興味深い後日談を残すとともに、地域のメディアの働きに価値があることを教えた。彼女は次のように書いている。「さあ、お次は執行吏だ。私は家のドアに『トライデントの核弾頭は大量殺戮のための武器です』と書いたポスターを貼った。私はそんなものにお金を払う気はない。執行吏は入れない。友人は歓迎する。レスター・マーキュリー (Leicester Mercury) がその写真を撮るためにわざわざやって



南ゲートの賑わいドラマー、シェイラ・マッケイ。2000年5月13日



メイポール。2000年5月13日

きた。昨日の新聞に既に二つ載っていたのに。もちろん、どちらも好意的なものだ。だから、トライデントのことを知らない地元の人はもうあまりいないだろう。そして、これまでのところ、皆が私と同じ見方をしている。これは素晴らしいことだ。裁判所でも、オルダーマストンの破壊性やトライデントにかかる経費、そして私自身について、つまり法律に従っているのは彼らではなく、この私であるということをお話する機会を得た。」

ヘレンズバラ地方裁判所は奇妙な審問を重ねていた。マリリン・クロウサー (Marilyn Croser) とヘレン・ハリス (Helen Harris) の公判では、グラスゴーのゴバルズ (Gorbals) 管区の警官が「平和を求める抗議者がファスレーンやクールポートでは国際法が侵害されていると言うならば、私はその疑いを追求するために行動を起こすだろう」と述べた。

検察側証人の証言は頼りないものだった。スターリング (Stirling) 治安判事は、ヘレン曰く「理由は最善とは言えなかったが」、無罪判決を出した。治安判事は例によって、被告人が検察側証人に国際法について反対尋問することを許さなかった。

スコットランド法務総裁が1月にギムブレット裁定に関して最高法院に事件を付託したとき、法務総裁は取り上げることを希望する四つの質問を提示した。これらの質問がなされた意図は、今後スコットランドにおける平和運動家の裁判で国際法が使われないようにし、普通の市民が戦争犯罪を防ぐ目的で行動することを全体的に厳しく制限するための回答を明らかにすることにあるようだった。この事件付託と関連した非常に不満足かつ懸念がもたれる予備審問は4月4日に開かれた。まず、ロジャー卿が裁判長を務めた。ロジャー卿はスコットランド法務総裁だった1992年、反トライデント運動家たちによるトライデントの合法性を問う訴訟を却下していた。ロジャー卿が理論的に偏向していたことは間違いないが、それだけではなく、彼の裁判の進め方もプロらしいとは言えなかった。アンジーが自分自身で抗弁していたとき、抗弁の最中にいきなり終了させられたことがあった。しかし、あとになってみると、今回の予備審問後に私たちが抱えていた強い懸念の多くは緩和されていた。ロジャー卿は判事団のリストからはずされていた。これが私達の強力な抗弁や支援してくれている政治家たちの主張によるもので

あるかどうか、私達には知るすべはない。グリーンロック裁判の最後から3日間分の筆記録と、専門家証人による証言記録の一部を提出するよう命じられた。アンジーの裁判費用の一部は国が負担することになり、さらに重要なことに、実際裁判にあたる判事団が法務総裁の質問の真意を探りたがっていることが分かった。私たちはネットワークを構築し、審問へのアプローチの仕方に関して世界各地における法律上の経験をもとに最善のアドバイスが受けられるよう準備した。



オルダーストンでの音楽パフォーマンス。2000年5月

5月9日、ヘレンズバラ地方裁判所において、マーカス・アームストロング (Marcus Armstrong) とルイス・ジェームズ (Louise James) は、8月のトライデントへの遊泳に関して罰金を課せられた。そのとき、2人はファスレーンの浮き遮蔽物のところまでしか行けなかった。裁判でマーカスは、トライデントの道義性を問う抗弁の要約を簡潔だが見事に述べ、最後にこう言った。「もし、いつか何かが起こったとして、そのとき、私の子供か孫か誰かが私に『知っていたの？ あなたは何をしたの？』と聞いたなら、私は『知っていたよ、もっといろいろなことができる力が欲しかったけれど、その状況下でそのとき私にできることはすべてしたよ』と言えるだろう。だからといって、それが大きな慰めになるわけではないが」彼はそれからスクリオン (Scullion) 治安判事に向かって、「あなたは自分の子どもや孫になんと言うのですか？」と尋ねた。しばしの沈黙ののち、治安判事は言った。「私はその質問に答えるつもりはありません」

5月13日、トライデント・プラウシェアズはスコットランドのCNDとともにファスレーンで「カーニバル」を催した。スコットランドを拠点とする活動家達は、5月中のおもな活動の場がオルダーストンになることを歓迎していたが、一方で、クライド基地への圧力も維持し、それによって南での活動に連帯のメッセージを送りたいと考えていたのだ。バーバラ・マグレガーはカーニバルを次のように表現した。「5月のカーニバル、それは豊饒と素朴なエロチシズムの祭りである。古来より、五月祭の前夜には若い男女がメイポールにちょうどよい頑丈な幹を探しながら森へ行き、『司祭と下着は抜きで暗い木立の中を大いに楽しんだ』ものだ。しかし、私たちの仲間のエル (El) は裁判中だった。ゴイル湖への愛が込められたボールが作られた。それは単なるボールというよりは、むしろトーテムボールで、海の生物たちや鳥、愛らしい獣たちが全体にあしらわれ、てっぺんに輝く太陽があった。酒盛りをしながら人々はその回りを踊り、創造的な混乱のパターンを織りなしていた。あらかじめ指定された時間に北ゲートとの巧妙な連絡が行われて、女性ロックバンド、モラグ (Morag) がバリケードの上で演奏を始めると、回りながら踊り狂っていた9人がボールを横たえて道路の真ん中を横切るように置き、紙張子で覆われている表面に穴をあけて、内部の中心を走っている鎖に自分達の色とりどりの装身具を固定した。歓声が上がり、陽気な音楽が続き、暖かい太陽に照らされて警官たちは日焼けし、私達は乾杯し、リコライスを嘔みながら、気まぐれな犬たちのよだれだらけのキスに圧倒されていた。ソウルマスターズ (Soulmasters) による『HOLD ON (踏みとどまれ)』がこれほどふさわしい場はなかった。警官たちは無線で『逮捕するには多すぎる』と言



オルダーストン封鎖。2000年5月22日

いあっていて、警官たちでさえけだるそうだった。午後 3 時、私達は全員ぶらぶらと、帰るためのバスに向かった。素晴らしい愉快な夏の出撃だった。」

テムズ・バレー警察は 4 月、私たちに対して文書で、オルダーマストンで計画されているイベントの主権者を明らかにしてほしい旨を告げていた。そして、5 月 22 日（封鎖予定日）の私たちの活動を、指定された駐車場に限るように要請していた。私たちは次のように回答した。「『主催者』や『指導者』はいません。いろいろな人々が時に応じていろいろな責任をとることになっていますが、常に、他の人に敬意を払いつつ、個人の責任と自立に基づいて行動することが基本で

す」 喜ばしいことに、この点が受け入れられたことがのちに国防省の印刷物から分かった。私たちはまたこの機会を捉えてテムズ・バレー警察の怠慢を非難し、次のように述べた。「トライデント・システムは何百万人もの罪のない市民を脅かすとともに、自然環境に対して長期にわたる深刻な脅威となっている。この

緊急的かつ著しく深刻な状況に際して、テムズ・バレー警察はどんな行動をとっているのか」 テムズ・バレー警察はストラスクライド警察に連絡をとり、私たちの活動に対する彼らの対応経験を参考にしようとしたが、威嚇するほうを選択した。しかし、のちに自分達のはったりが露呈すると、もっと適当な線に落ち着いた。そして、私たちが計画してきた非公式のキャンプ・サイトの使用に理解が得られた。また、オルダーマストン核兵器施設（AWE）公社からも文書が送りつけられた。そこには、万々キャンペーンによって混乱や損害が生じたときには法的措置をとるという脅し文句が書かれていた。

その週末は、ゲートで行われたバロック・アンサンブル Sonnerie と世界的バイオリニスト、モニカ・ハゲット（Monica Hugget）によるコンサートで幕を開けた。ハゲットは「オルダーマストンで平和の象徴としてコンサートを開催することは、人々の心にその対照をはっきりと印象付けることになるでしょう」と述べた。翌日、レディング（Reading）からの行進が到着し、そして、



平和行進がファスレーンに到着。2000 年 8 月 1 日

最初の逮捕者が出た。ウラ・ローダー、ロジャー・フランクリン（Roger Franklin）、ジョアン・メレディス（Joan Meredith）、それにファンガス（Fungus = Zoe Weir）らが基地内に入って逮捕された。警察の保釈条件は、オルダーマストンから 5 マイル（約 8 キロ）以内に立ち入らない、というものだった。スコットランドのアフィニティ・グループ「ローカル・ヒーローズ」のエリック・ウォーレス（Eric Wallace）は、月曜日に行われた封鎖について次のように記述している。「私たちの行動にカラビナ（登山の道具）とチューブを使うという決定は、一部の者にとって初めはやっかいなことのようには思われた

が、ファンガスが私達を説得し、結局いい結果につながった。これらの道具を使ったために、警官たちは私達を引き離そうとすることをあきらめ、結局、3 時間以上もゲートを封鎖できたのだ。特別警察官たちが来て私達を切り離れたときも、個人がそれぞれ留まってもよく、離れてもよく、常に主導権は私たちのほうにあっ

た。もし、私たちが単に腕を組んでいただけだったならば、怒りに駆られた者が私達の行動をこけおどしと見て戦列を車で突破し、戦列は崩されてしまったにちがいない。私たちが動けないということが明らかだったからこそ、そういうことが起きなかったのだ。チューブを使う方法のもうひとつの優れた点は、自分達の意のままに場所を移動できることで、実際、警察は私たちの必要に応じて道を開けてくれ



ケート・マクナルティ。ファスレーン，2000 年 8 月



スーザン・ファン・デル・ヒーデン、バーバラ・サンダーランド、デイヴィダ・ヒギン、オルダーマストン、2000年5月

た！」

その日の逮捕者は46人、週末全体で55人だった。これらのなかで起訴された者はほとんどいなかった。多くの者が保釈され、後日警察署に出頭した。この週末キャンプはかなりの成功だったと言える。特に、長い間オルダーマストンを標的にしてきた人々の参加を得られたことが良かった。ヘレン・ハリスはそれを次のように記述している。「いつものように情報不足からくる敵意が多少見られたが、全体として、トライデント・プラウシェアズのキャンプはオルダーマストン地域住民の意識を呼び覚まし、その結果、地域の高い関心と厚い支援を得ることができたと感じている。」その週末キャンプの核心となった封鎖の実行については、オルダーマストンにはゲートがたくさんあり、危険な道路もあるため、大集団での行動には不向きであり、初めてキャンプに参加する者にとって理想的な場所とは言えないと考える人もいて、実行前は懸念が持たれていたのだった。

6月19日、トライデント・プラウシェアズと「メンウィズヒル女性平和キャンペーン (Menwith Hill Women's Peace Campaign)」との共同行動で、ヘレン・ジョン、アンジー・ゼルター、アン・リー (Anne Lee) の3人は、ヨークシャー州メンウィズヒルにある米国家安全保障局宇宙戦争偵察基地 (U.S. National Security Agency Space-War Spy Base) の新しい警戒厳重なフェンスを乗り越えた。そのフェンスは米国の新型弾道弾迎撃ミサイルシステム (ABM) を支援するシステムを取り囲んでいるもので、3人の目的はこのフェンスを撤去することだった。3人は衛星通信エリアを取り囲む内側のフェンスを切り始めたところで逮捕された。アンジーは「弾道弾ミサイル防衛は国際的秩序全体を脅かしています。たとえ、トライデントが明日なくなったとしても、彼らはまだ宇宙に核兵器を持とうと計画し

ています」と述べた。3日後、「ウォーカーズ・フォー・ピース (Walkers For Peace: 平和のために歩く人々)」の団体が400マイル(644キロ)先のファスレーンを目指してオルダーマストンを出発した。このグループはおもに日本山妙法寺の僧侶や尼僧からなっていた。妙法寺は平和運動に力を注いでいる小さな仏教寺である。次の木曜日、ヘレン・ハリスは罰金と重い賠償命令を拒否し、7日間刑務所に送られた。この時点で、トライデント・プラウシェアズの活動家が刑務所で過ごした日数はのべ700日に達していた。

8月に予定されているクールポートでの3回目のキャンプと8月1日のファスレーンの封鎖について、着々と準備が進められていた。私たちはこれらのイベントに関する7月の新聞発表で、英国が高等裁判所におけるディエゴ・ガルシア島民達との裁判で抗



スコットランドの作家アリソン・ケネディー (中央の野球帽)。ファスレーン、2000年8月1日

弁していることを指摘した。1960年代における英米間の裏切り行為的ポラリス協定の結果、島民たちは島から立ち退かされていた。都合のよいときだけ国際法を認めるやり方は英国政府の長い伝統だった。私たちは封鎖の準備段階でストラスクライド警察署長ジョン・オール (John Orr) に公開書簡を送り、私たちが逮捕したり、現場から無理やり立ち退かせたりしないように要請した。これを端緒として、オールは私たちと興味深い往復文書のやりとりを始め、合法性の問題について少なくともある点までは進んで話し合おうとする意思を示した。グリーンノック判決は依然としてインパクトをもっていた。

8月1日、平和行進をしてきた30人の到着を皮切りに封鎖が始まった。彼らはトライデントの核弾頭が作られているオルダーマストンを6月26日に出発



灯籠流しを軍警察のボートに依頼。2000年ヒロシマの日

して以来ずっと歩き続けていた。僧侶や尼僧を先頭に、彼らはまっすぐゲートまで行って、持ってきた何千羽もの折鶴をゲートにかけようとし、拒否された。活動家達は短い儀式を行ってから、座り込んでお互いに手を組み、入り口を封鎖した。警察が警告を発したのち出動し、彼らを逮捕、告発した。リーズのハロルド・ベスト (Harold Best) 議員とスコットランドの作家 A.L.ケネディ (Kennedy) がその場で支援と励ましを送った。皮肉だったのは、オルダーマストーンからクライドバンク (Clydebank) への平和行進中にウエスト・ダンバートンシャー (West Dumbartonshire) 議会から暖かい歓迎を受け、注目を集めた女性達の多くが、封鎖時の逮捕で今度は同じ町の刑務所にいるという結果になったことである。メディアの報道は好意的で、出動した警察が封鎖する集団を引き離そうとしているなかでウェールズのレイ・デーヴィス (Ray Davies) が口を開けて苦悶に満ちた表情をしている写真が掲載された。実際はレイは歌っていただけだったのだが。もう一枚のいい写真はフーシー (Hoosey) とティーポット (Teapot) が南ゲートの三脚状の櫓のてっぺんにいる光景を写したもので、これはそこらじゅうに掲載されていた。彼らが自主的に下りてくるまで、南ゲ-



擬人化された核犯罪に対する怒り。ファスレーン、2000年ヒロシマの日

トは7時間以上閉鎖されていた。A.L.ケネディがその場にいたことによって新たな賛同者が増えたことは明らかで、数日間のうちに、私たちはスコットランドの彫刻家ジョージ・ワイリー (George Wylie) からの訪問を受けた。彼は全面的な支援を約束してくれた。

クールポートのキャンプは、ジェニー・ガイアウィンが罰金の支払いを拒否したためにコーントンベールへ送られたのと同時に始まった。その後の数週間はほんとうにさまざまな活動が行われた。クールポートでの Shift To Peace Work (平和な仕事への転換) 活動、いくつかの封鎖、平和のための落書き、クールポートの立ち入り禁止区域内へのゴムボートによる侵入、山ほどのフェンス切断 (特に Sponsored Fence Cut [資金提供者のいるフェンス切断] での) 等々。活動のハイライトは今回も、トライデントへの遊泳であった。8月6日、ウラ・ローダーとマークス・アームストロングは基地の重要警戒区域に泳いで侵入し、ブームを通り抜けてシップリフトまで行き、トライデントから数メートルのところまで迫ったとき、偶然発見されて逮捕された。そのとき防犯警報が鳴った。この広島の日、私たちはファスレーンに集合して長い感動的なセレモニーを行い、核犯罪に対する怒りから希望とエンパワーメントへの感情の移り変わりを経験した。これらのすべてが巨大な女性像に象徴的に表されていた。ロング湖の湖畔で行われたその夜のセレモニーは水辺での仏教式典で始まった。用意していた灯籠が岸に向かって吹き寄せられる危険があったので、私たちは国防省海兵隊の部隊の助けを求めた。数人の活動家が灯籠を高く掲げてゴムボートのところまで歩いて行き、それを水兵たちが非常に紳士的かつ友好的にボートに乗せた。2週間の逮捕件数は計161件にのぼった。2回以上逮捕された活動家もいた。そのなかの最高はマークス・アームストロングで、7回逮捕されていた。今回のイベントは一つの行動キャンプであったと同時に、以前から参加していた者にも、今回始めて参加した者にも、さまざまな機会を提供した。このイベントを機に、参加者たちは自分のビジョンと目標を新たにし、いろいろな領域にわたる技術-裁判に関すること、非暴力の原理と実行方法、通信方法、ボートの扱い方などを学び、将来への戦略をじっくり考えた。キャンプがちょうど終わった時、クレブ・ドラゴンライダー (Kreb Dragonrider) が再拘留となってグリーンノック刑務所に送られた。彼は前回の裁判に出廷せず、保釈条件にも違反していたのだった。9月4日、事務弁護

士リズ・ロス (Liz Ross) の上手な弁護にもかかわらず、彼は不運にも、ヘレンズバラ地方裁判所でフレーザー・ギリーズ (Fraser Gillies) 治安判事から合計 850 ポンド (約 152,000 円) にのぼる罰金の判決を受けた。その裁判所の欺瞞に対する私たちの忍耐は限界に達した。9 月 11 日、シルビア・ボイズは前夏ファスレーンに泳いで侵入した件とクールポートでバスに自分の体を固定した件に関して裁判に出廷した。そのとき彼女は、判事達にふさわしいやり方で不敬の意を表した。シルビアは自分はクエーカー教徒として常に真実を語ると述べ、証人席から証言することを拒否したのだった。マックファイル (McPhail) 治安判事は彼女の力強い要約を根気よく聞いていたが、自分はトライデントの合法性を審判するためにここにいるのではない、と述べた。シルビアは 100 ポンド (約 18,000 円) の罰金を言い渡された。しかし、それを支払うつもりはなく、まだ支払っていない罰金のすべてに関する問題が裁かれるまで法廷に残る、と述べた。裁判は次の事件に移り、ロジャー・フランクリン (Roger Franklin) がシルビアの隣の被告席に座った。ロジャーの裁判に休廷が告げられたが、シルビアはまだ座ったままだった。治安判事は書類をかき集め、シルビアと 4 人の支援者たちが起立の指示に従わなかったことを無視して、事務官と地方検察官とともに足早に退出していった。

同日、レイチェル・ウェナムとロージー・ジェームズの公判がマンチェスター刑事裁判所で始まった。英国軍艦ベンジェンスを非武器化しようとしたレイチェルとロージーを原潜から連れ去るとき同行した海軍の技士が証言し、非武器化行動によってベンジェンスの出航が遅れたことを認めた。公判 2 日目、別の検察側の証人が出廷し、ロージーとレイチェルによって非武器化された装置に取って代わる検査装置がなかったため、ベンジェンスはレーダー監視システムが正常に作動しているかどうか分からないまま出航した、と証言した。次にロージーが、直接行動が成果を生み出す唯一の方法であると実感していることを感動的に述べた。14 日の公判ではレイチェル

が証言し、汚物だらけのバロドックにおける恐怖の遊泳について語った。レイチェルがドイツの裁判官ウルフ・パンツァーらが行ったドイツ国内のパーシング・ミサイル基地の封鎖について述べると、判事は明らかに驚き、自分にもウェットスーツが必要かもしれない、と言って皆を笑わせた。15 日、弁護側の専門家証人 3 名が出廷した。アンジー・ゼルターは、すべての通常の方法による道が閉ざされたときは直接行動が必要であると述べた。ポール・ロジャース教授は、トライデント艦隊が与える脅威がいかに現在の英国の防衛戦略の基本になっているかを説明した。アクロニム・インスティテュートのレベッカ・ジョンソンは、被告たちが非武器化を行ったとき、国際的緊張の高まりのなかで核の脅威がいかに機能していたかについて述べた。判事は、トライデント

の脅威または使用は現行のイングランドの法律に違反しておらず、弁護側の抗弁のうちそのことを根拠にした部分は陪審に付することができない、と裁定した。レイチェルは事件要点の説示 (訳者註: 判事が陪審員



ロージー・ジェームズとレイチェル・ウェナムの公判中、マンチェスター刑事裁判所の前に置かれた平和のハンマー。2000 年 9 月

に与える) の前に、法廷弁護士の手をわずらわせることなく、陪審団に向かって、ニュルンベルク原則にしたがってそれぞれの良心に従うよう訴えた。ロージーとレイチェルは、前年バローでトライデント原潜である英国軍艦ベンジェンスに平和のスローガンをスプレーで書いたという犯罪的破壊行為に関して、無罪の評決を得た。陪審はさらに長時間を費やしたが、司令塔の試験装置の損壊という第一の訴因については評決に達することができず、「不一致陪審」となった。ロージーとレイチェルがスプレーでスローガンを書いたことを一度も否定しなかったという事実を照らすと、陪審は彼女達の抗弁が正当であると決定した、ということになるだろう。これは非常に大きな成果であった。この裁判は陪審員達にとって明らかに深刻なジレンマの種となった。「フェロー AWTT (Fellow AWTT: オルダーマストーン女性トラ

イデント廃棄組織の仲間)」のメンバーであるヘレン・ハリスは次のように語った。「おそらく、その裁判で最も良かった部分は審問である。検察側証人の用心深い陳述から、今回の活動がほんとうに効果を上げた—つまり、英国核艦隊の4分の1にあたる部分の配備が一定期間、おそらく、数週間か数ヶ月間遅れた、ということが明らかになったのである」検察側は時間を相当引き延ばした末に、来年の再審を通知した。これは、犯罪を防ぎ法律を支え守るための告発の法的手続きが2年以上かかることを意味している。法的手続きの著しい乱用である。

10月4日も、ヘレンズバラ地方裁判所での長い1日の一つとなった。トライデント・プラウシェアズ関連の事件24件が審議され、6件の公判が開かれる予定になっていた。しかし、結局これらの裁判は1件も行われず、私たちは今回も、来年まで延期するという審議持ち越しの合唱に服することになった。午後遅く閉廷したが、私たちの1日はまだ終わっていなかった。せっかく遠くからやってきたのに、この機会を無駄にするわけにはいかない。私たちのうち12人ほどがクールポートを目指して西へ向かい、フェンスに手をかけた。7人が逮捕された。全員が数時間で釈放された。この話は翌朝、スコットランドのテレビの定時ニュースで、ゲール湖(Gareloch)に停泊中のトライデント原潜の資料写真とともに放映された。

ギムブレット裁定に関する法務総裁の事件付託の審問は予定されていた通り10月9日に始まった。国側とレスポネント(被告)と呼ばれる当事者側—この場合はアンジーとウラとエレン—がそれぞれ、3人の最高法院判事の前で主張を述べることになっている。これは実質的に、ギムブレット判決に対する国側の裏口からの上告である。これによって3人の無罪が覆ることはないが、否定的な結論が出されれば、3人を有罪とすべきであったという示唆をもたらすことになるのは明らかだ。3人のレスポネントは全員、人権条約から発生する争点(付託されるべき争点と呼ばれる)を提起しており、その一つは、この手続きは被告の再審に等しいとの主張である。しかし、犯罪の真の源、すなわち、トライデントそれ自体についても議論されつつある。裁判長のプロッサー(Prosser)卿と判事団がこの裁判に入っていることは明らかだ。彼らは法務総裁の四つの質問だけでなく、関連性のある争点のすべてを検討するつもりだとの意思を示している。国側とレスポネント側はそれぞれ2巡ずつ発言することになっている。サイモン・ディ・ロロ(Simon Di Rollo)

が検察側の口火を切った。彼の主張の核心は、英国はトライデントの配備によって慣習的国際法のどの規定にも違反していることはなく、トライデントの使用は現在も脅威ではないし、これまでも脅威であったことはない、というものである。興味深いことに、彼は1996年に出されたICJ(国際司法裁判所)の勧告的意見のかなりの部分を読み上げた。

次はアンジーが自分自身の代理として発言した。アンジーは発言者のなかで唯一のしろうとだった。この手続きは、無実の人々が殺されるのを防ごうとする権利が一般市民にあるか否かという問題に関係している、とアンジーは述べた。検察側はアンジーとウラとエレンが単に反対運動あるいは抵抗運動をしていただけだと主張したが、アンジーはこれに強く異議を唱えた。アンジー達は戦争犯罪への準備を阻止しようと行動してきたのだ。市民はこれまで何度も司法制度を通じてこの犯罪性が問われるよう試みてきた。しかし、犯罪訴追手続きは一度も行われたことがなかった—「イングランドとスコットランドの刑事訴追当局は厳しく責任を追及されるべきである」そして、アンジーは次のような言葉で締めくくった。「法務総裁の事件付託の結果がどう出ようとも、核犯罪を防止するための行動は続くでしょう。しかし、裁判所が賢明で勇気を持っているならば、グリーンロック裁判から明らかになった根底に潜む問題、すなわち、トライデントの違法性というきわめて重大な問題と、いかにしてトライデントをスコットランドから撤去するかという問題にも正面から取り組もうとするでしょう」法廷で着席している私たちは、スコットランドで最高位の法廷において、じっと聞いている裁判官達と騒がしい傍聴人達の目の前で、トライデントの合法性がついに崩れ始めたことを夢のように思い、自分達の頬をつねった。

次にジェリー・モニハン(Gerry Moynihan)勅撰弁護士が発言した。彼は、ICJの判事達が核兵器の包括的禁止を求めている唯一の理由を説明した。それは、海上での船舶に対する、または砂漠の孤立した軍事目標に対する低爆発力兵器の使用に限って合法的な核兵器の使用もありうる、とICJ判事の一部が考えているということである。この条件付けは、もちろん、明らかに違法なトライデントにはあてはまらない。また、グリーンロックでウラの弁護に成功したジョン・メイヤー弁護士が今回もウラの代理人として出廷し、「照準をセットし、いつでも発射できる態勢になっている100キロトンの核弾頭を装備したトライデント原潜の艦隊を、『ただ所有しているだけ』などということはありません」と述べた。

核兵器を配備しているということは、それを戦争で直ちに使えるようにしてあるということだ。

10月13日金曜日、審問は延期され、10月14日に再開されることになった。金曜の夜、エジンバラ市議会（非核地帯議会）はトライデント・ブラウシェアズのために市民レセプションを開いてくれた。レセプションの前に支庁舎で英国世界法廷プロジェクト(World Court Project UK)が企画したセミナーが開かれ、アンジーとオスロ大学のステイル・エスケランド(Stale Eskeland)が短いスピーチを行った。アンジーは、変化をもたらすことができるのは普通の人々の行動と圧力だけである、と述べた。ステイルは、ある程度楽観できる余裕はあるものの、私たちはこれからも「冷静な頭脳と暖かい心を持って懸命に努力する」必要があるだろう、と述べた。市の中心にある聖アウグスティヌス合同教会(St. Augustine's United Church)は仕事場と宿泊所を提供してくれるという実用的で心のこもった方法で私たちを歓迎してくれた。おかげで私たちはいつでも市議会広場に行くことができた。ときどき、片手にトライデント・ミサイルを、もう一方の手に病院や学校のような建設的なものを持った白衣の背の高い正義の女神像も同行した。女神は最高法院の灰色の建物を悲しそうにずっと見つめていた。

エジンバラ高裁で付託された争点についてハイレベルの審理が行われていたのに対し、ヘレンズバラ地方裁判所ではまだまぬけな裁判が続けられていた。10月23日、ジェイン・タレンツは1999年8月の直接的封鎖行動に関して300ポンド(約54,000円)の罰金を課せられた。2日後、マリリン・クローサー(Marilyn Croser)とジョイ・ミッチェル(Joy Mitchell)が、2月の「クライム・バスターズ(Crimebusters: 犯罪始末人)」による封鎖で果たした役割に対してそれぞれ50ポンド(約9,000円)の罰金を課せられた。同日朝、「ファスレーン・ピース・キャンパーズ(Faslane Peace Campers: ファスレーン平和キャンパーズ)」のマルジャン・ウィレムセンとファンガスは法廷に出廷して前回の反トライデント行動に対する罰金をまだ支払っていない理由を説明することになっていた。2人は裁判所に行く代わりにファスレーン海軍基地に行って、外辺部のフェンスに穴をあけて侵入し、基地内の船積み用停泊場所の一つにある照明用支柱に登り、「トライデント原潜は世界を脅かす」と書いた垂れ幕を下げた。国防省によって拘留された2人は正午に釈放され、午後の公判に出廷した。ファンガスはもう1週間支払いを待つとされ、マルジャンはすぐに刑務所



正義はエジンバラ高裁前で待つ

に送られて、そこで7日間を過ごした。マルジャンは金曜日に釈放されたのち、活動の続きを行うためにまっすぐファスレーンに戻った。

謝辞

この部分はデビッド・マッケンジー(David MacKenzie)が執筆した。

この章で使われた写真を提供してくれたすべての人々に感謝する。写真を撮った人の数があまりに多く、その大部分が無名の方なので、最も平等な方法として、すべての写真にクレジットタイトルをつけないという方法をとることにした！